

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 8月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700079		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム阿品みどりの家		
所在地	広島県廿日市市阿品四丁目50-33 (電話) 0829-36-4388		
自己評価作成日	令和2年 7月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700079-00&ServiceCd=320
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 2年 8月 7日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに入居者様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながらイベント行事、外出支援、外食等を行い季節を感じて頂くことを積極的に行っている。小規模多機能の方々とイベント等で関りがある。外部の方々との交流も大切にしており地域の夏祭り、冬の餅つき大会、防災訓練、定期清掃にも積極的に参加し敬老会、クリスマス会、地域の方によるそば打ちのおもてなし等で地域交流できるイベントも計画し実施している。同じ廿日市にある他法人グループホームとはお互いの運営推進会議への参加やイベント行事等で交流を行っている。現在はコロナウイルスにより制限はあるもののホーム内でできることを行っている、緩和した際には上記の事をまた行っていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム阿品みどりの家は瀬戸内海が見渡せ、対岸の宮島を一望できる閑静な住宅街に位置しています。「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の基本理念の下、利用者、管理者、リーダー、職員は一緒に楽しく笑って過ごせ、家庭的な雰囲気で居心地の良いグループホームにしたいと、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに取り組んでいる。地域の中で普通の存在、暮らしを保てるよう日帰り旅行、買い物、外食等の外出支援をしています。又、地域の祭り保存会に加入し、夏祭り、餅つき大会、防災訓練等行事に積極的に参加し、開かれたホームとして交流しており、地域と協力体制を築いている。利用者、家族、管理者、職員は良好な信頼関係を築き、全員が愉快的我が家で過ごしているような環境作りの工夫や努力が見られます。24時間対応の医療機関との連携で看取りまで支援して下さるので、利用者、家族にとっては安心出来るグループホームです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基本理念とし家庭的な雰囲気の中、居心地の良いホームを目指しながら、入居者様、ご家族との信頼関係作りを大切にしている。	事業所の理念、基本方針を玄関、フロアーに掲示し、フロアー毎の目標を掲げ毎朝朝礼で唱和し、職員全員が目標に向き合って共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭り保存会へ加入し地域行事に積極的に参加している。ホームが開催する行事にボランティアを招いたり地域の方に参加を呼びかけ、継続した関係が作れるよう努力している。	町内会に加入しており、地域祭保存会の一員として発信源となり、地域行事に参加し夏祭り、餅つき大会、清掃活動、防災訓練等の交流が行われている。事業所主催の花火大会への家族他の参加や保育園児の訪問、ボランティアの方のそば打ち、手品、大正琴、踊り等の訪問で利用者は楽しまれ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には地域行事の会合や打ち上げの場、運営推進会議などで地域の人からの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し行政、地域の方、民生委員、消防団、ミニティーの会長、他法人のグループホーム等参加されている。問題点、活動状況等を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂き、よりよいサービスが提供できるようにしている。地域の問題や情報も頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域代表、民生委員、消防団、家族、市役所介護保険課職員、地域包括支援センター職員、会社役員、ホーム長、職員の参加で開催されている。運営報告では利用者、職員の状況、活動報告、活動予定、ヒヤリハット運営上重視している事を報告し、出席者の様々な情報、提案を聞き、それらをサービスの向上に活かしている。	運営推進会議に家族の参加が少ないと感じておられ、参加のご案内等送付したり、行事時に開催する等、検討し多くの方が会議に参加される事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。今年は社協から依頼をうけ認知症養成講座等を行っている。	市役所には書類提出、わからない事は問い合わせ、情報を得ている。社会福祉協議会からの依頼で認知症養成講座で講師をしている。地域包括支援センターとは情報交換を共有し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の有人化が実現していない、全開放には至っていない。今後の課題である。しかし3F、4F、5F自由に行き来できることを心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、生命に関わる場合・ご家族が希望される場合は説明し同意書を取り交わしている。その際も身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。	身体拘束はしていないが、身体拘束廃止マニュアルをもとに研修を行い3ヶ月に一回、身体拘束等適正化委員会で何が拘束になるか職員と協議し、正しく理解出来るよう徹底し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年虐待防止のホーム内研修を行っている。またケア向上委員会を作り、虐待への防止を図っている。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の「かけはし」を利用できる環境である。権利擁護の必要性を認識しながら、社会福祉協議会と連携を取っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。家族会ではご意見、ご要望をお聞きしている。また遠方に居るご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。	家族の面会時には職員から声掛けをし、話しやすい雰囲気の中で、要望や意見を聞いている。月に一回、みどり便で請求書送付時に、日々の様子の写真と手紙を送ったり、メールでお知らせしたり細かく伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティング、3F・4F・5F共同の全体ミーティングを最低月に1回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。	月に一回のフロアミーティングでは全員の意見を聞き、日々の業務の中で随時職員の意見・提案を聞き、それらを会議で検討し運営に反映させている。職員はコミュニケーションを取り、働きやすい職場環境を整えている。	職員からの多くの意見集約に、アンケートの実施を考慮おられ、実施される事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望にはその都度聞き対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、他法人の運営推進会議への出席、イベントを合同で行ったりし、情報交換を行っている。認知症サポーターとしても同業者との交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションの取れる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合える事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きしている。その際に生活歴や趣味等をお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、共に本人を支え合える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由に面会、外出、外泊をして頂いている。また携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。面会もご姉妹、親戚、お弟子さん、聖書の勉強等多岐の方に来て頂いている。	家族、親戚や踊りのお弟子さん、お茶のお弟子さんの面会があり馴染みの関係が途切れないように支援している。家族と外食、自宅に外泊される方、家族と買い物に出かける等希望の場所に外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつまでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族と出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話しをお聞かしている。	日々の関わりの中で利用者の表情や言葉等、家族から情報を聞く場合もあり、今、何がしたいのか意思表示を汲み取り、把握に努めている。食べたい物を希望される場合があり、できるだけ希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ベースを把握し、共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを活用しながら職員がアイデアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題で挙げ職員全員で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。	モニタリングを毎日一人ずつ行っている。ケアプランは半年毎に作成し、作成時には利用者、家族、医師、看護師、職員の意見やアイデアを参考に、生活日誌を基にミーティングで話し合い、利用者に変化があればその都度、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気づきやケアの工夫は連絡ノートに記入し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム2ユニット、小規模多機能とイベントを共同で行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域の民生委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができています。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族が付き添って受診する。	入居時、かかりつけ医の希望を聞いているが、全員協力医をかかりつけ医にしている。月に2回の往診があり、緊急時、夜間など看護師、かかりつけ医と連携し医療を受ける事ができる。専門医受診を希望される場合は家族対応で受診している。日々の健康管理は看護師に相談している。	

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。	入居時、重度化された場合の説明をし希望があれば家族、利用者の方針を伝えている。重度化した時、家族、主治医、看護師、ホーム長、職員が話し合い、方針を決めて共有し、利用者にとって最良支援になるよう努めている。3月に1名の看取りをしており、その際フロアで最後まで過ごされ看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の職員の連携はよくとれている。繰り返し研修する必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。地域の民生委員の方々にも参加していただいている。地域の消防団との連携を取りより地域の協力体制を築いていきたい。	消防署立ち合いの下、年2回の避難訓練が行われている。夜間想定での避難、通報、消火器使用等地域の方も参加して行われている。消防団との防災訓練も行われている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前で話さないようにしている。	プライバシーについて職員は研修で学び、利用者の尊厳を傷つけないような言葉かけに気を付けている。日々の業務の中で不適切な対応があればその都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との話の中で、テーマを決め外出先、食べたい食事等をお聞きし意見を発表して頂く等積極的に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また1日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が献立を考え、できる入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。	3食手作りで利用者の希望を聞き、食べたい献立になるよう提供している。利用者は野菜の皮むき、盛り付け、テーブル拭き、できる事を手伝って食事作りに参加している。行事食も多く、誕生日はちらし寿司、毎月一回お好み焼き、おせち料理等提供している。又、おやつ(パンケーキ、アイスクリーム、ドーナツ、カステラ)作りも利用者の楽しみになっている。お正月には甘酒を提供し、利用者と職員はテーブルを囲んで談笑しながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、キザミ食、ミキサー食を提供し、必要な栄養確保に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を傷つけない様、声掛けをトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握している。	プライバシーに配慮した声かけで、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。なるべくパットの量を少なくする等、トイレで自然に排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かしたり水分補給に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を目的に、個々に応じた支援を行っている。希望があれば入浴剤の使用や浴槽で音楽を聴いて頂きリラックスして頂いている。	入浴は週2回は入れるようにしており、体調に合わせて足浴、清拭、シャワー浴等で対応している。又、好みの入浴剤で楽しまれている。ゆっくりと入ってもらい、入浴の場でなければ日頃言えない思いを話されたり、入浴の最後には歌を歌っている方もいてリラックスしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気をつけながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園への散歩や屋上散歩、地域の行事、外出支援や昼食外出を定期的に行っている。外出支援にはご家族様も同行してもらうこともあり、ご本人とご家族との思い出作りのお手伝いさせていただいている。	日常近隣の散歩に出かけたり、屋上で洗濯物を干したりしている。地域の夏祭り、餅つき大会、マリナーホップでバイキング料理を食したり、初詣やドライブで出雲、下関、倉敷等に外出支援している。家族の協力もあり戸外に出かけ気分転換をし、楽しく外出が出来る様に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方が居る。ご自分で出来ない方はお手伝いをさせて頂いている。職員に定期的に手紙を書いてくださる入居者様もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底している。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。	リビングには季節の花が活けてあり、利用者と職員の手作りの作品が飾られている。廊下には本棚があり読書をさせている方もあり、ゆったりと過ごせるように空間作りを工夫している。利用者はテレビを見たり、談話したり思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを置いたり、席の配置に気を配り、気の合った入居者様同士で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地のよい空間作りを心掛けています。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気をつけています。	居室には家庭で使われていた馴染みの物、テレビ、テーブル、椅子、仏壇、タンス、衣装ケース、冷蔵庫、鏡台、ぬいぐるみ、花、家族写真等が置かれていて、安心して過ごせるような居室作りの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用や手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム阿品みどりの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム阿品・みどりの家

作成日 令和 2年 8月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	○運営に関する職員意見の反映：ミーティング以外でも意見の集約と対応を行う。	年1回アンケートを実施し、結果をもとに教師をして意見を反映できるように取り組む。	アンケートを作成し、配布、結果をもとに意見取り込んでいく。	1年
2	4	○運営推進会議を活かした取組み：家族や利用者の参加が少ないことから参加者を増やす。	運営推進会議に家族や利用者の参加者を増やす。	家族に案内文を送付する。個別に依頼をかけていく。	1年
3	34	○急変や事故発生時の備え：社内研修は実施をしているが、救急救命講習を実施していないことから開催する。	全職員が救急救命講習を受ける。	毎月1回開催している研修会で講習を実施する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。